
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年8月8日号

©2007年6月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年6月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 油糧は輸出入とも増加、食用油は輸入増も輸出は減

海関統計によると、1～5月の油糧の累計輸入量は、前年同月比7.5%増の1,177.1万トンで、うち大豆は同9.4%増の1,133.5万トン、菜種は同7.1%減の35.1万トンとなった。また、油量の累計輸出量は、同18.5%増の59.6万トンで、うち落花生は同19.6%増の31.7万トン、大豆は同27.2%増の21.9万トンとなった。

同じく食用植物油の累計輸入量は、前年同期比37.4%増の322.0万トンで、うちパーム油は同22.3%増の199.4万トン、大豆油は同45.6%増の105.6万トン、菜種油は同47.4倍の11.2万トンとなった。食用植物油の累計輸出量は、同44.3%減の7.7万トンとなった。

2 世界の油糧在庫量は増加、食用油在庫量は減少

米国農務省（USDA）が6月に発表した予測によると、2006/07年度（2006年10月～2007年9月）における世界の油糧生産量は、前年度比3.6%増の4.043億トンと見込まれている。うち大豆が6.7%増、綿実が3.3%増と見積もられた一方、菜種は3.9%減、落花生は2.0%減と見込まれている。同じく油糧圧搾量は、前年度比3.8%増の3.299億トン、油糧の期末在庫量は、10.7%増の7,132万トンと予測されている。

2007/08年度（2007年10月～2008年9月）における世界の油糧生産量は、前年度比1.3%減と予測され、うち大豆が4.3%減、綿実が0.5%減と見積もられた一方、菜種は9.7%増、落花生は0.4%増と見込まれている。同年度の世界の油糧圧搾量は、前年度比3.8%増、期末在庫は14.8%減と予測されている。

また、2006/07年度の世界の食用油生産量は、前年度比3.3%増の1.217億トンと予測されている。うち大豆油が3.9%増の3,587万トン、菜種油が3.7%増の1,779万トン、パーム油が2.8%増の3,683万トン、ヒマワリ油が3.5%増の1,078万トン、綿実油が3.3%増の471万トンと見積もられた一方、落花生油は1.6%減の489万トンと見込まれている。食用油消費量は、同5.2%増の1.212億トンと予測されている。同じく、食用油の期末在庫は引き続き減少して780万トン、最近5年間で最低水準となった。

3 上半期の国内油糧・食用油価格は大幅に上昇するも、最近では食用油価格が下落

国内の油糧生産が限られている一方で、食用油消費は増加を続けていることから、国内生産で市場需要を賄うことができず、大量の輸入が必要な状況となっている。輸入食用油（輸入油糧を食用油に換算した量を含む）が国内市場に占める割合は、額ベースで55%以上を占め、国内市場に対する影響は大きく、基本的に国内市場価格を主導している状況にある。総体的には、2007年上半期の国内油脂・油糧価格は高水準で推移している。最近の状況としては、落花生油価格は堅調だが、菜種油、大豆油及びパーム油価格は高水準から反落する動きを示している。

【菜種】上半期の価格は加速度的に上昇し、5月末の菜種の工場買入価格は1トン当たり3,700元にまで達したが、その後は下落に転じ、6月末の湖北省の工場買入価格は3,560円で、前月比3.8%安、前年同期比38.0%高となった。

【落花生】上半期の落花生価格引き続き上昇したものの、5月に入ると基本的に安定し、高水準で堅調に推移した。6月末の山東省の中等搾油用落花生の工場買入価格は、1トン当たり7,000円で前月並み、前年同期比31.6%高となった。

【大豆油】国際価格の影響により、大豆油価格は比較的大きな上下幅で推移した。年初は前年の下落基調で推移したものの、3月末には上昇を始め、5月末には1トン当たり8,400万元に達し、ここ2年で最高を記録したが、その後は急速に下落した。6月末の山東省の4級大豆油の工場出荷ベースのオファー価格は、1トン当たり7,950円で、前月比8.3%安、前年同期比51.9%高となった。

【菜種油】年初は緩やかに下落した後、4月末には急速に上昇し、6月中旬には1トン当たり9,000元と年内最高価格となった。最近では下落に転じ、6月末の江蘇省の工場出荷価格は1トン当たり8,600円で、前月比2.3%安、前年同期比63.8%高となった。

【落花生油】上半期の落花生価格は高水準で、引き続き上昇姿勢を示したが、最近では高水準で安定している。6月末の山東省の落花生油の工場出荷価格は、1トン当たり14,000

元で前月並み、前年同期比70.7%高となった。

【パーム油】国際大豆油価格の上昇とパーム油輸出国の供給逼迫に加え、輸入国の需要が旺盛であることから、アジアのパーム油市場価格は大幅に上昇した。上半期の国内パーム油市場は、前年同期比50.4%高の1トン当たり7,000~8,200元の高水準で推移している。6月末の天津港のパーム油（融点24℃）のオファー価格は、1トン当たり7,300元で、前月同期比9.9%安、前年同期比60.6%高となった。

4 国際大豆油価格は上昇を維持、内外価格差は拡大

米国の大豆播種面積の大幅な減少により大豆価格が上昇し、大豆油価格も引き続き上昇したことにより、内外価格差は拡大した。6月末における7月出航予定のカナダ発中国向け菜種のCNF（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB価格＋運賃）は1トン当たり455ドルで、前月同期比5.8%高、前年同期比44.4%高となった。南米の未精製大豆油価格は同835ドルで、前月同期比1.8%高、前年同期比55.5%となった。また、マレーシアのパーム油（融点24℃）価格は同740ドルで、前月同期比10.3%安、前年同期比76.2%となった。

6月末のカナダの菜種CNF価格に基づく試算によると、輸入菜種の価格は、江蘇省・浙江省地区の新収穫の菜種工場買取価格に比べ1トン当たり730元前後高く、南米の未精製大豆油価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格より同100元高い。